

“ The World of CINDERELLA ”

СЕРГЕЙ ПРОКОФЬЕВ ЗОЛУШКА

あらすじ



ここはシンデレラの父親の家です。シンデレラの継母と二人の姉達は舞踏会へ行ってしまう寂しく家に残ったシンデレラ。暖炉のそばには汚い服を着たシンデレラがいます。まま子である彼女はこの家のつらい仕事を全部おしつけられていました。

お気に入りのホウキと森の妖精チムリだけが友達です。チムリは、ひとり孤独なシンデレラの気持ちを^{まき}紛らわそうと、得意なバイオリン演奏を披露したり踊りを踊ってみせたり、散らかった部屋の片付けを手伝ったりするのです。チムリのやさしい気づかいと、部屋の暖炉の暖かみで、気持ちも安らぎます。

そこに、まばゆい光を放ったクリスタルに導かれ、貧しい老女に変装した仙女が現れます。心がきれいでやさしいシンデレラは自分の食べる分のパンまでも老女に分け与えるのです。

老女はパンのお礼にキラキラと光る小さな美しいものをシンデレラに渡します。この美しい小さなものが何かはわからないのですが、何故か自分も明るい気持ちになり、この小さなものを大切にすることになりました。

そしてチムリと踊ったりホウキと踊ったりするのです。すると、王子の幻影が現れ仙女と4人の精たち、王子の友人たちとのグランワルツがはじまります。まるで舞踏会の情景のように、精たちや友人たちが輪の中にシンデレラを招き入れます。

その情景がいつの間にか消え、またひとり部屋に残るシンデレラ。王子の姿はやはり幻だったと、悲しみます。

そこへ、また再び仙女が現れ、美しい四季の精たちから舞踏会で踊るためのドレスをシンデレラにプレゼントし、王子と出会えるよう、森の向こうのお城へ送り出します。

四季の精たちはそれぞれ季節の踊りを華やかに踊り、青い鳥に導かれお城に向かうシンデレラを森の妖精たちは温かく迎え入れます。

森では、いたずら好きの小さなねずみ、ちょうちょ、小鳥、オレンジたちが明るく愛らしく踊るほのぼのとした情景があります。12人の時計の精たちは、シンデレラが真実の愛を見つけて幸せになれるよう応援しています。

夜空に^{また}瞬く星の精たちは、ワルツでシンデレラをお城に導きます。

王子と出会ったシンデレラは愛のデュエットを踊ります。どの精たちもやさしくシンデレラを迎え入れ、フィナーレへと仙女がいざないます。それぞれが美しいメロディを奏でるのです。

最上 恵美子